

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
英米文学作品研究 The Study of English Literature		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(教職課程必修(中学校教諭英語二種))	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
異文化間コミュニケーション				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
佐藤秀一	本館2階	火曜日・水曜日の11時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
英米文学の近代以降の動向を時空を超越して、本質的に人間素材とその営みに有機的に拘り合う観点として、主だった作家、作品を通して考える。また、その際、基本的な文学知識や作品の背景となるべく歴史的、社会的、文化的状況を併せて観てゆく。英米文学世界の芸術性を考察し、文学の面白さ、素晴らしさを感じてほしい。				
授業の目標				
①作品を貫通するイメージーションを考察し、自己の人生を豊かなものにすることができるようにする。 ②”生きる”ということについて真摯に向き合い考えることができるようにする。 ③作品の描写、思想、人間の「状況」について考察することができるようにする。 ④社会のあるべき姿、人間の在り様について考えることができるようにする。				
授業の方法				
授業の進め方は、講義と演習の形式を併用して行う。毎回の授業はテキストを中心に進めていくが、時には、プリントを配布し、講義をおきなう。各自一人ひとり各パラグラフごとに読み、鑑賞したことをクラス全体の前で発表し、その内容についてディスカッションをする。そのことにより作品をより深く読み、より深く味わうことができるからだ。				
学習の成果(学習成果)				
①文学世界に触れることにより、感動する心が生まれ人生を豊かにすることができる。 ②「生きる」あるいは「生」と「死」と真摯に向き合うことで自己の人生について考えることができる。 ③さまざまな知識が身につく深く教養を身に付けることができる。 ④人を思いやるやさしさを養うことができる。 ⑤人生における判断力を養うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明 (担当:佐藤秀一)			
第2回目	WINESBURG, OHIO PAPER PILIS			
第3回目	p. 6 NOBODY KNOWS			
第4回目	p. 11 A MAN OF IDEAS~P. 16 I would run finding out things you'll never see.			
第5回目	p. 16 Becoming more excited Joe Welling crowded ~p. 17 silent, fierce looking son.			
第6回目	p. 18 When Sarah began walking out in the evening~p. 21 You know that			

第7回目	p. 22 RESPECTABILITY～p. 25 "I suppose you were and your wife is dead, is that it?"
第8回目	p. 25 Wash Williams spat forth a succession vile oaths～p. 28 into the warm, soft ground.
第9回目	p. 28 For a moment there was a catch～p. 30 She died of a fever a month after that happened.
第10回目	p. 31 THE THINKER～p. 39 then see what fun I shall have.
第11回目	p. 39 In George Willard's room, ～p. 48 -some one like that George Willard.
第12回目	p. 49 LONELINESS～p. 55 his Brooklyn apartment.
第13回目	p. 55 To be sure, Enoch's marriage did not turn out. ～p. 62 but I'm all alone.
第14回目	p. 63 DRINK～p. 69 and so went and did it.
第15回目	p. 69 In Cincinnati, when he lived there, ～p. 74 That's why I did it.

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	ディスカッション等の場面で自分の考えを進んで述べる。理解できない点があれば積極的に質問する。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	テーマを設置し、それについてクリエイティブな独自の考えを述べながら、論理的に証明している。
発表内容（態度含む）	20%	思考、探求力が深く、誰もが納得できる内容で明白に述べている。
その他		

教科書と参考図書

WINESBURG, OHIO by Sherwood Anderson (南雲堂)

履修上の留意点・ルール

常に作品の素晴らしさを考え、感動し、持続して読んで行く姿勢で授業に臨んで欲しい。食べ物飲み物持ち込み厳禁。